

目次：

大阪高等工業学校蒸溜機室	1	受贈刊行物	8
眞島利行と八木秀次『眞島利行日記』にみる	2	学内刊行物の保存場所についての基本方針	14
東工大 資史料館の誕生物語	4	業務日誌(抄)・公印いろいろ	15
書評「大西愛編『アーカイブ・ボランティア —国内の被災地で、そして海外の難民資料を』」	6	利用案内等	16



大阪高等工業学校蒸溜機室

NHKの連続テレビ小説「マッサン」を楽しみに視聴された方も多いのではないのでしょうか。マッサンのモデル、竹鶴政孝は、1913（大正2）年に大阪高等工業学校醸造学科に入学しました。大阪高等工業学校は、現在の大阪大学工学部の前身となる学校です。竹鶴も写真のような実習等を通してウイスキーへの興味を抱いていったのかもしれない。

（菅 真城）

眞島利行と八木秀次—『眞島利行日記』にみる—

東北大学史料館准教授 永田英明

眞島利行（1874-1962 写真左）と八木秀次（1886-1976 写真右）。第二次大戦末期から敗戦直後に相次いで大阪帝国大学総長を務めた二人は、初代総長長岡半太郎の強い意向で阪大理学部創設の核として仙台の東北帝国大学から招請された人たちである。眞島は初代（1932～）、八木は2代目（1939～）の理学部長をつとめ、まさに初期阪大理学部の舵取り役であった。



筆者の勤務する東北大学史料館で所蔵する眞島利行文書には、眞島が東北帝国大学に赴任した大正3年（1914）から晩年の昭和34年（1959）にかけての日記52冊が含まれている。その中では、阪大在任時代を中心にしばしば八木秀次の名が見える。眞島の視点からと言うことになるが、日記を通じてこの二人の関係を追いかけてみよう。

大阪行きの決心

午後八木(秀)教授をとひ、本多総長よりき、し同氏大阪をことわる由につきてたづねる。長く話さる。同（八木）君は行く気なきにしもあらずなれども、こちらの研究所のことと向ふの実情にあきたらぬのにてやめる也。余も自身のことを述べて相談す。八木氏は行くことをすすめる。されど余は決心つかず。(昭和六年十月五日)

東北帝国大学在職中、阪大への異動話をめぐって八木の研究室を眞島が訪ねたときの記事である。眞島は同年4月25日学士院での学術研究会議の場で長岡半太郎から大阪行きを打診され、「余りに突然で驚く」「大分難問題」と受け止めながらもその後回答を保留していた。一方八木もまた大阪行きを長岡から打診され

一度断っていたという。東北帝大総長の本多光太郎は長岡の直弟子でもあり、長岡はおそらく本多にも打診していたのだろう。なお八木が挙げた理由のうち「こちらの研究所」というのは、八木が財団法人斉藤報恩会の助成で主導してきた「電気を利用する通信法の研究」の成果を基礎に、東北帝大への設置に動いてきた電気通信研究所である。その設置要求は昭和4年度以降毎年概算要求事項に載せられたが実現せず、その見通しが立たないうちは動けないというのが当初の八木の心境だったのだろう。一方の眞島も、八木の勧めにもかかわらず決心がつかずにいた。

二人が大阪行きへと傾くのは翌月。先に心を決めた眞島は長岡邸を訪ねて決心を伝え（11/16）、創立委員の顔ぶれなどについて相談。翌日仙台に帰った眞島は早速八木を訪ね、大阪行きを伝えると共に今度は逆に八木に大阪ゆきをすすめた。さらに再度長岡邸を訪ねた（11/25・26）眞島は、そこで預かった八木への伝言を翌日「長岡氏の懇嘱」として伝達、八木はこれにより「意大に動いた」という。おそらく八木に期待する役割や条件について踏み込んだ話が盛り込まれたのだろう。眞島も八木の同行を喜んだようで、2月23日の日記には「八木氏は大阪の方に乗気なり。喜ぶべし。」と記している。その後八木と眞島は一緒に長岡邸を訪ねて（3/10）人事等の相談をし、仙台に帰ってから眞島と八木は折に触れて会合しては相談を進めている。

学部長交替をめぐって

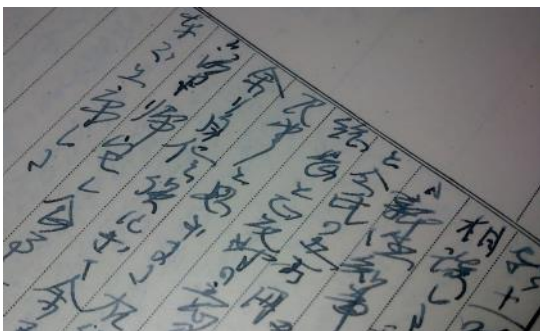
十時頃八木氏来る。三階部長室にて懇談す。同氏は今何か発明的のことをやらんとせる由にて部長などにて時間をとられることをも好まず。また同氏が工科の方なる故表面的に一寸具合わるくも思へらるらし。其他種々のことあるべく想像せらる。余も之より研究に努力したればとてそれがより若年の八木氏の研究よりも多くの効果を挙げうるや疑問なり。是に於て元来余が大阪へ来たことは初めより犠牲のつもりなる故或は現職に尚あるも已むをえざる

かと考へるにいたれり。(昭和十年八月二十四日)

眞島は阪大理学部創立と共に学部長となり昭和14年(1939)までつとめたが、途中昭和10年(1935)夏に一度当時の楠本長三郎総長に「研究に専念したし」と辞意を漏らしたことがある。楠本は即答せず八木と協議することを求めた。八木が後任の最有力候補だったからである。しかし眞島の依頼に対し八木は多忙であること、工学出身であることを理由にこれを断り、眞島も「其他種々のことあるべく想像せらる」と背後の事情を察し引き下がったようだ。なお澤井実氏はこれについて八木が当時陸軍科学研究所第一部嘱託として「特秘兵器」開発に関わっていたこととの関係を示唆している(人物叢書『八木秀次』)。

「国防通信研究費」助成をめぐる

八木氏と同氏の五万円の請求につきて話した。気焰万丈当たるべからず。総長と正反対の意見なり。今度の理事会に其の通過を計りてみやうと思ふ。また右は経常費とはちがふといふこと也。兎も角余り自信強すぎて余にはむしろ不快にさへ感ぜられた(昭和十六年二月六日)。



眞島は理学部長退後、新設の産業科学研究所の準備を任せられその初代所長となる。研究所は眞島・八木研究室の出身者を中核に出発しその後徐々に拡張されていった。昭和16年(1941)から八木は、産業科学研究協会からの五年合計15万円の「国防通信研究費」を得てここで共同研究を行うことになるが、この件について眞島は八木の手法にやや批判的である。眞島は昭和15年(1940)10月3日の日記に「八木氏産協より年五万円宛五年間特別研究費を得たしといふ。且つ已に之を直接(産研協会の)吉野氏に出した、且つ理事長へも書面を出したといへり。我は顔なる遣り方かなと思へども何も言わず。」と記し、

それが上記の「余にはむしろ不快にさへ感ぜられた」という記述にもつながっている。結局眞島は自身の判断で「三万円五カ年継続」に減額査定し「初年度は研究所経費より二万円捻出して五万円にする」妥協案を八木に吞ませた。「かくせざれば所内の平和保たれず」という判断である。調整型の眞島と辣腕型の八木、二人の相違がよくあらわれた事例であろう。

眞島と八木

実は仙台時代以来の眞島と八木を知りたいと思い日記をめくったが、結果として、東北帝国大学時代の眞島の日記には八木をほんのわずかしき見つけることが出来なかった。八木は工学部、眞島は理学部と学部が異なることを考えればこれはある意味当然のことだろう。もちろん学部長や評議員などとして両者はたびたび学内行政などの場で顔を合わせていたはずだが、個人としての一対一の付き合いはほとんどなかったと思われる。両者の結びつきは、長岡半太郎の要請とともに仙台から大阪に移り阪大理学部の発足を支えた、ということに尽きるのだろう。調整型の眞島は、そのやや強引な手腕に時折顔をしかめつつ、毒舌で遣り手の八木をブレーンとして頼りにした、ということだろうか。八木はこのあと昭和17年東京工業大学に学長として転出し、眞島はその翌年第三代総長に就任し昭和21年まで在任したが、その後4代目の総長となったのがやはり八木であった。この時の眞島と八木のやりとりなども日記に記されていたであろうが、残念ながらそれは現在残されていない。

眞島利行日記は、現在「眞島利行文書」の一部として、東北大学史料館で一般に公開している。本稿でも触れた部分含め大阪大学関係部分の日記はすでに柴哲夫氏が抄出紹介されているが(『大阪大学史紀要』第4号、1987年)、その他の部分も含め、東北・大阪両大学の歴史のみでなく二十世紀前半の戦前戦後の日本の科学研究の歴史を知る一級資料の一つであろう。是非とも皆様にもご活用いただきたい。

※なお東北大学史料館所蔵の眞島利行関係資料は、大阪大学総合学術博物館所蔵の資料と共に「眞島利行ウルシオール研究関連資料」の一部として平成23年度に日本化学会の化学遺産としても認定を受けている。

東工大 資史料館の誕生物語

東京工業大学博物館(資史料館部門)特命教授 広瀬 茂久

1 はじめに

東京工業大学(東工大)は、今から遡ること130余年、明治維新後まもない1881(明治14)年に、国立の東京職工学校として誕生した。関東大震災(1923年)でほぼすべてを焼失したが、その後、日本の近代工業化と足並みを揃えるように、理工系単科大学、そして近年には理工系総合大学へと規模を拡大してきた。本来ならば日本の工業教育史が東工大の資史料館に刻まれていなければならないのだが、創立から132年を経た2013年ようやく「資史料館」が設置され活動を開始するとともに、「公文書室」を併設することにより、2015年4月から「特定歴史公文書等」を収蔵・公開する準備が整った。ここでは、資史料館や公文書室誕生のいきさつや規模、今後の課題などを紹介させて頂く。

2 博物館構想と史料館構想

大きな総合大学では史料館がないことは想像できないだろう。しかし、理工系単科大学の色彩が強い東工大には130年にもわたって史料館がなかった。これは例外中の例外に違いない。科学技術の最先端で凌ぎを削るという宿命から、よく言えば「未来志向」、悪く言えば「前のめり」にならざるを得ず、自分たちの軌跡を後世に残すものとしては、論文(発明・発見)と卒業生しか考えられず、それ以外の試作品や文書類の体系的保存にまでは手が回らなかったのかもしれない。

流れが少し変わったのが、創立100周年の寄附金で百年記念館が建てられ(1987)、その中に寄附者である同窓生の強い希望で博物館機能が組み込まれてからだ。白川英樹博士のノーベル賞や、フェライト、歯車、水晶振動子、光通信などの業績の保存・展示のために、関連文書の収集が積極的になされ、博物館と史料館の必要性が認識されるようになった。博物館の方は順調に準備が進んだが、史料館の方はなかなか日の目を見なかった。この間に百年史(通史と部局史の2分冊)が編纂されたのは驚異的なことで、史料集めに奔走した編集委員の先生方の苦労は並大抵

ではなかったと思われる。実際、百年史の刊行は104年目(1985年)にずれ込んでいる。

3 年史編纂で失われがちな一次資料

苦労して集めたはずの貴重な史料も百年史の刊行後は行方知れずとなった。保管のための場所と仕組みがなかったために、編集部解散と共に、恐らくダンボール箱につめられたままいつしか忘れ去られ廃棄されたのだろう。

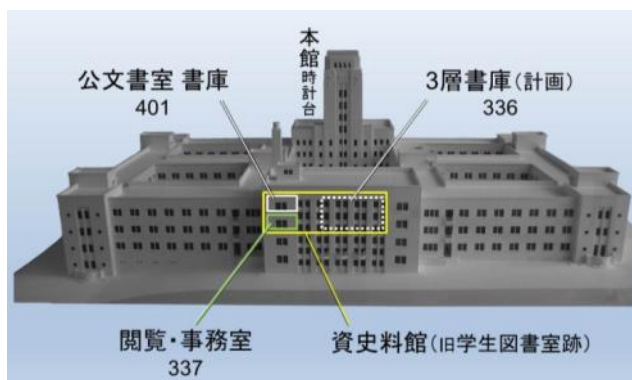
似たようなことは、町史の編纂でも起こると聞いた。50年100年という節目で、町の年史を作るためには、各村や地区から歴史的に重要な出来事の写真や文書類を集めることになる。農村などでは代々村長さんだった家などには貴重な史料が残っており、それを町に供出することが多かった。しかしその史料はほとんど返却されることはなく、散逸してしまったようだ(仮に持ち主に返されたとしても、アルバム等のもとの位置に戻されず、袋詰めのまま別の場所に置かれ紛れてしまった可能性が高い)。町史に採用されたものはまだいいが、そうでなかったもの場合は取り返しのつかないことになる。つい先日、「古いアルバムを見つけたが、一番見たい写真が剥ぎ取られていた」と悔しがっている人たちの話を聞いた。年史編纂と史料館(室)はセットで考えなければならないようだ。

4 資史料館の誕生

130年史の編纂も史料集めから始まった。現任教員の負担を減らすために、編集委員4人のうちの3人は名誉教授から選任され、主として通史を担当したが、部局史となると各部局に執筆を頼まざるを得なかった。「資料無しに書けと言われても…」という“怒り”の声が上がった。学長にも話が伝わり、「わかった。今後のために史料室を作ることになろう。ただし、名前は“資史料館”というように、資料の“資”を先につけてはどうだろう。その方が学内の理解を得やすい」となった。

ちょうどその頃、旧学生図書室の跡地利用が検討されていたので、タイミングよく場所が確

保できた。さらに、公文書管理法（2009、2011施行）への対応を求められていたこともあって、公文書室の設置までも含めた計画が一举に動き出し、冒頭のように開設準備が整った。130年史編集委員の多くは、年史刊行（2011）後も資史料館と公文書室の準備に係わることになった。



東京工業大学資史料館の配置図。4階401号室が公文書室の書庫で、その下の337号室が閲覧・事務室及びスタッフルームとなっている。将来的には天井が高い336号室に3層書架を設置し、収蔵スペースを確保していきたい。書庫が広くなるにつれ、空調との関係で、夏場の省エネに頭を悩ますことになりそうだ。文書類の画期的な保存技術の開発が望まれる。

5 コストパフォーマンスと模索すべき連携

準備にあたっては、先行例を見習いたいと、いくつかの大学（東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学）の文書館や国立公文書館、内閣府公文書管理課などを訪問し、アドバイスを頂いた。種々の制約からそれらを生かしきれないのが残念だが、私共の場合は、経費節減と事務の効率化の観点から、博物館傘下の組織として、資史料館と公文書室がスタートすることになった（事務支援は総務部広報・社会連携課）。狙いどおりにスケールメリットが出せるかどうかは今後の課題だ。

限られた予算と人員で、文書の収集・整理・保存・公開という通常業務に加え、調査研究をも行うのは至難の業に思えなくもないが、魅力的な資史料館であり続けるためには避けて通れない。なるべく早く紀要やニュースレターを出せるようになりたいものだが、現状ではコストパフォーマンスを考えると、学生や教職員に興味を持ってもらえそうな話題を「とっておきメモ帳」シリーズとして発行するのが精一杯だ（インターネットで「とっておきメモ帳」と入力する

とアクセスできるので是非ご覧ください）。

どの文書館にも共通の悩みと思われるが、予算と人員増が望めない。このような状況下では、他部局との連携が不可欠となる。そこで期待しているのが、「学内情報活用センター」の助けだ。このセンターが本格的に稼動した暁には、オンライン閲覧システムの構築とメンテナンスを肩代わりして貰えるだろう。情報収集に関しては、評価室との連携を視野に入れている。評価室は各部局のパフォーマンスを年度毎にモニターしているが、同時に根拠資料として、議事録を含む膨大なファクトデーターも収集・分析しており、考え方によっては資史料館のとても便利な出店とみなせるからだ。

6 おわりに

130年余りを経てようやく産声を上げた私共の資史料館は、今後、先輩にあたる各大学等の文書館を見習いながら、特色ある文書館を目指して歩いていくことになる。理工系総合大学の姿をしっかりと記録し公開することにより、関係者の精神的な拠りどころとするとともに、明日を切り開く活力の源となるような未来志向の資史料館にしていきたい。公文書管理法もいい意味で保護者になってくれることを期待している。先輩方には、新しい仲間として温かく迎えて頂き、ご指導ご鞭撻を賜れば幸いだ。



資史料館内の公文書室 左奥が湿度調節装置



資史料館内の閲覧・事務室



書評「大西愛編『アーカイブ・ボランティア —国内の被災地で、そして海外の難民資料を—』

大阪大学名誉教授、国士舘大学政経学部教授 阿部 武司

今からちょうど20年前の1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災以来、多数の市民ボランティアが被災地の復興に重要な役割を果たすようになった。「ボランティア元年」と呼ばれるようになった同年以来、災害が発生する都度、ボランティアが被災地の復興に大きく貢献していることは周知の通りである。本書は、内外の第一線で活躍しているアーキビストたちが、日本の被災地、および海外のアーカイブで行っているボランティア活動を変興味深く紹介している。本書の目次は以下の通りである。

渥美公秀「刊行によせて」

大西愛「はじめに一アーカイブは残さなければ残らない」

第Ⅰ部 災害国日本のアーカイブを救済する

第1章 奥村 弘「大災害から歴史資料を守る—歴史資料ネットワークの活動」

コラム 大西 愛「資料目録をつくるボランティア」

第2章 青木 睦「捨てるな！ 記憶より記録—ボランティアとともに釜石市の公文書救済」

コラム 大西 愛「水に浸かった文書を救済する」

第3章 小松芳郎「釜石市と陸前高田市での活動—全史料協の対応」

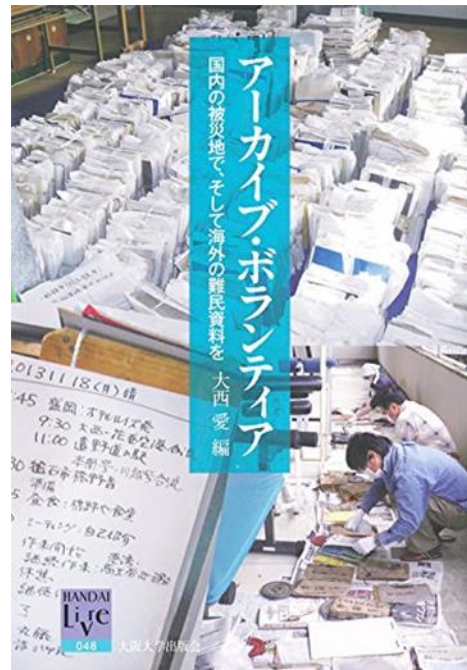
第4章 金山正子「ボランティアで、できることとできないこと」

第5章 藤 隆宏「紀伊半島大洪水と資料の救出」

第6章 小川千代子「除染する前にさわってはいけない—放射能汚染文書の除染マニュアル」

コラム 大西 愛「公害・環境問題のアーカイブとボランティア」

第Ⅱ部 海外のアーカイブとボランティア活動



第7章 ディディエ・グランジュ「ジュネーブ市文書館の歴史と活動」

コラム 小川千代子「イギリス国立公文書館アーカイブ友の会」

第8章 大西 愛「第一次世界大戦時の捕虜カード—赤十字国際委員会の仕事」

コラム 小川千代子「赤十字新月博物館にて」

第9章 小川千代子「国際連合のアーカイブ」

第10章 下田尊久・大西愛「国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の仕事とアーカイブ・ボランティア」

コラム モンセラート・カネラ「UNHCRのアーカイブは過去と現在を未来のために保存する」

コラム 金山正子「UNHCRアーカイブの地下書庫にこもった！のです」

コラム 元ナミ「なぜUNHCRで資料ボランティアをするの？」

日本の被災地に関する第Ⅰ部のうち第1章では、阪神・淡路大震災以降自然災害が頻発するようになった状況のもとで、既存の歴史資料の保存とともに、大災害自体を後世に伝える災害資料を収集・保存することの重要性が強調され、そしてそのために立ち上げられた「歴史資料ネットワーク」の活動が紹介されている。大災害以前にはあたり前に存続していた、その地域の景観や生活も失われてしまうことが多くなった。アーカイブによってそうした記憶を意識的に継承することは、被災者がありし日を偲ぶ、よすがとなるだけではなく、防災の観点からも重要であろう。いわゆる箱ものを造ることも無意味ではないのだろうが、私たち一人一人の自然災害に対する意識の変革はさらに重要であり、その際に歴史の教訓がきわめて有効であることを本章は教えてくれる。

第Ⅰ部の第2章以下では、2011年3月11日の東日本大震災や同年8月末の紀伊半島大水害の際における歴史資料の救済（アーカイブ・レスキュー）の実態が克明に記述されている。資料のクリーニングや放射能の除染などは、専門知識を持ったアーキビストならではの仕事であり、歴史資料のみならず現用・半現用の行政文書の救済も文書管理の専門家の協力なくしては困難であろう。また、2006年夏に発生した水害の際に、アーカイブ・レスキューを実施した熊本県天草市が、東日本大震災で被害を受けた自治体に扇風機やスポットクーラーなどの資料の救済に役立つ物資を提供してくれたというエピソード（47ページ、65ページ）は感動的であった。さらに、レスキューの時にリーダーが、処置の優先度を付けることが重要であるという指摘（70-71ページ）も説得的であった。

外国のアーカイブに関する第Ⅱ部では、①現在から約100年前に勃発した第一次世界大戦時に発生した、兵士700万人にも及ぶ捕虜の個人情報収集・公開しているスイス・ジュネーブの赤十字新月博物館、②米国ニューヨークの国際連合本部、およびスイスの国連ジュネーブ事務所の図書館アーカイブ室などで、重要な資料がきちんと保管されており、閲覧請求をすれば原則として誰でもそれに接触可能であることが説明されている。日本においても国立公文書館、各自治体の文書館などで貴重な公文書の公開が進んでいるものの、予算額あるいはスタッフの数が

そうした海外の諸機関に比べて明らかに貧弱であり、さらに、情報公開に様々な制約が課されている。本書で紹介された諸外国の事例を知るにつれてため息ばかりが出てしまうのは評者だけではあるまい。

さて、本書の圧巻は、編者の大西氏をはじめ数名の執筆者が2009年以来、毎年2週間程度参加し今なお進めている、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）におけるベトナム難民資料の整理作業の紹介であるように思われる。第一線で活躍しているアーキビストたちが、本務のかたわら休日を割き、ほとんど手弁当でスイスのジュネーブまで出向いて世界の人権・人道に関わる貴重な記録を残すボランティア活動を行っていることは日本で、もっと知られて良いことであろう。この箇所を読んでいて、筆者たちが骨の折れる地味な仕事を毎日進めながらも、「ボランティアは働きすぎではいけない」のであって（175ページ）、限られた時間の中でも観光や現地での生活を楽しむべきであるという主張、また、世界の広さと多様さや、外国におけるアーカイブの形成を、身を持って知ることができて、有益であったという感想などに接すると「なるほど」と感心した。

以上、本書のうちから評者の関心を惹いた記述や指摘を簡単に紹介してきた。各章・コラムとも大変わかりやすく記述されている。さらに詳しくは、読者各位が本書を楽しみながら読み進めていただきたい。本書は、専門的な知識や技術を持つ人材でしか成しえないボランティア活動の1つのあり方を示してくれるとともに、この世にただ1つしか存在せず、放置しておけば永遠に失われてしまう記録を、1人ではなく仲間で協力しあい創意工夫を重ねて残していくことの大切さを、教えてくれるように思われる。

（大阪大学出版会、2014年6月刊行、四六判、本体価格1700円＋税）

受贈刊行物 (2014年9月～2015年2月)

追手門学院大学

追手門学院大学国際教養学部紀要 第8号(通号50号)、追手門学院大学創立50周年記念講演会[第3回]自校教育の展開(チラシ)、追手門経済論集 第49巻第1号

大阪女学院教育研究センター

大阪女学院教育研究センターNewsletter 第5・6号

大阪市立大学大学史資料室

大阪市立大学史紀要 第7号、第6回 恒藤恭シンポジウム「戦争の世紀と恒藤恭の平和主義Ⅱ」(チラシ)

学習院大学大学院

人文科学研究科アーカイブズ学専攻

〈就職状況ご提供のお願い〉記録やアーカイブズ管理に関する人材募集の情報をお寄せください(チラシ)、愛媛県宇和島市三浦公民館文書目録 第3集(三浦村役場文書・後藤定志氏寄贈文書)、記録を守り、記憶を伝える 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻 入試説明会(チラシ)、記録を守り記録を伝える(パンフレット・リーフレット)、公文書管理法5年見直しについての合同研究集会(チラシ)、学ぼうアーカイブズ学！目指そうアーキビスト！！(チラシ)

関西学院大学 大学博物館 学院史編纂室

Gift for the Future 未来に贈る125年、関西学院事典 増補改訂版、関西学院大学博物館(チラシ)、未来への125年ー関西学院のあゆみー INVITATION(案内)

京都産業大学

サギタリウス vol.65・66

京都大学大学文書館

京都大学大学文書館企画展 京大経済学部の創設と河上肇たち(チラシ)、京都大学大学文書館だより 第27号

近畿大学建学史料室

A Way of LifeーSeko Koichiー 世耕弘一先生建学史料室広報 18号、不倒館ー創設者世耕弘一記念室(リーフレット)

慶應義塾福澤研究センター

「慶應義塾と戦争Ⅱ 残されたモノ、ことば、人々」展リーフレット、慶應義塾福澤研究センター講演会 日韓のはざまで(チラシ)、慶應義塾福澤研究センター通信 第21号、慶應丸の内シティキャンパス定例講演会 「一身独立して「一国独立」す〜福澤諭吉からのメッセージ〜(チラシ)

皇學館大学研究開発推進センター

皇學館大學百三十年史 年表篇・写真篇

神戸国際大学学術研究会事務局

神戸国際大学 経済経営論集 第34巻第2号、神戸国際大学紀要 第87号

神戸女学院史料室

學報 NO.172

神戸大学附属図書館 大学文書史料室

平成26年度神戸大学史・特別展 官立神戸高商物語(ポスター・チラシ)

国際基督教大学歴史資料室

献学60周年記念事業・歴史資料室特別展「幻なければ民滅ぶー湯浅八郎とICUー(チラシ)

駒澤大学禅文化歴史博物館

企画展 道教の世界〜沖縄・中国・台湾の民間信仰(ポスター・チラシ)

淑徳大学アーカイブズ

淑徳大学アーカイブズ・ニュース 第10号、淑徳大学創立50周年記念シリーズ企画2 平成26年度淑徳大学アーカイブズ特別展 鶴の森の記憶ー大巖寺周辺地域の明治・大正・昭和ー(ポスター・チラシ)

女子美術大学歴史資料室

女子美術大学歴史資料室ニュースレター TEXNH MAKPA 第8号、横井玉子・藤田文蔵と私立女子美術学校創立展図録

成城学園教育研究所

成城教育 第165・166号

大東文化歴史資料館

大東文化歴史資料館だより 第17号

玉川大学教育博物館

玉川大学教育博物館 館報 第12号

中央大学大学史編纂課

中央大学史紀要 第19号

中京大学社会科学研究所

中京大学社会科学研究所学術講演会「イタリアの地方文書館の多様性と特色」(ポスター)

津田塾大学 津田梅子資料室

津田梅子生誕150周年記念 海を航る 津田梅子の誕生1864-1882(チラシ)

東海大学学園史資料センター

東海大学学園史ニュース No.9、東海大学七十五年史 編集だより 第1号

東京外国語大学文書館

東京外国語大学文書館 第6回ホームカミングデイ&建学記念会 記念企画展「東京オリンピックと外語の学生たち」(パンフレット・チラシ)

東京経済大学史料室

大倉喜八郎かく語りき 進一層、責任と信用の大切さを

東京大学文書館

東京大学文書館ニュース 第53号

同志社女子大学史料室

同志社女子大学史料室第19回企画展「真実ノ愛心ヲ以テ同志社女学校、同志社病院・京都看病婦学校」(ポスター・チラシ)

同志社大学同志社社史資料センター

松蔭寮50周年記念展 ～第2の故郷～(チラシ)、ハリス理化学館同志社ギャラリー第5回企画展 同志社と文学(ポスター・チラシ)

東北学院史資料センター

学校法人東北学院 東北学院史資料センター 2014年度公開学術講演会 押川方義と挑戦(ポスター・チラシ)

東北大学史料館

これからの大学と大学アーカイブズ 東北大学史料館 創立50周年記念講演会・シンポジウムの記録、東北大学史料館だより No.21

東洋英和女学院

楓園 No.75・76、史料室だより No.83

東洋大学

井上円了センター年報 Vol.23

獨協学園史調査研究資料センター

第4回企画展 天野貞祐特別展(チラシ)

長崎大学

広報誌CHOHO Vol.49・50、長崎大学リレー講座2014

(パンフレット)、リーディング大学院×長崎大学リレー講座 特別企画 最前線のリーダーシップ～多様化する問題を解決に導く力～(ハガキ)

名古屋大学大学文書資料室

第2回 名古屋大学大学文書資料室シンポジウム 今、なぜ大学史かーその意義と展望ー(チラシ)

日本女子大学成瀬記念館

日本女子大学成瀬記念館 収蔵史料目録1 旧成瀬記念室資料

日本大学広報部大学史編纂課

日本大学大学史編纂課だより 第7号

広島大学高等教育研究開発センター

RIHE International Seminar Reports No.21, August 2014、大学論集 第46集 2014年度

明治大学史資料センター

大学史紀要 第19号 阿久悠研究

明星大学50年史編纂事務局

明星大学創立五十周年記念誌

立教学院展示館

延世大学校尹東柱記念事業会支援事業 詩人尹東柱没後70年遺稿・遺品巡回展示会 福岡～京都～東京 in立教学院展示館 詩人尹東柱27年の生涯(チラシ)、立教学院展示館 2014年度ホームカミングデー展 校友たちの青春ー躍動の1950～60年代 Iー(チラシ)、立教学院展示館(図録)、立教学院展示館NEWSLETTER『The Heritage and Future of Rikkyo』No.1

立命館大学

立命館百年史 資料編三(DVDソフト)

早稲田大学大学史資料センター

2014年度秋季企画展 十五年戦争と早稲田(ポスター)

国文学研究資料館

国文研ニューズ No.36～38、国際シンポジウム 歴史的典籍画像の30万点Web公開と国際共同研究(チラシ)、古典籍共同研究事業センターニューズ ふみ 第1・2号

全国大学史資料協議会東日本部会

大学アーカイブズ No.51

全国大学史資料協議会西日本部会

研究叢書 第15号 大学史資料の活用と展示ー2013
年度全国研究会の記録: 於 明治大学ー

大学共同利用機関法人

人間文化研究機構研究資源共有化事業委員会
研究資源共有化システムニュースレター 第9号

大阪癌研究会

癌と人 第42号 創立80周年特別号

野間教育研究所

野間教育研究所紀要第54集 暗唱の言語心理学的
検討ー行動指標と脳神経学的指標を用いてー

社団法人生産技術振興協会

Newテクノマート 創 2014 JUN.Vol.13、生産と技術
Vol.66No.4

あおぞら財団

資料館だより No.50・51、見て、聴いて被災地の今を知
る 関西×東北応援ツアー 被災地の新しい1ページ
に出会う(チラシ)、未来に共につなげよう公害資料館
のわ 第2回公害資料館連携フォーラムin富山(チラシ)

尼崎市立地域研究史料館

地域史研究ー尼崎市立地域研究史料館紀要ー 第
114号

外務省外交史料館

外交史料館報 第28号

香川県立文書館

平成26年度企画展 水のアーカイブズー満濃池の記
録(チラシ)

神奈川県立公文書館

神奈川県立公文書館だより 第31号

京都府立総合資料館

Library of the Year 2014 大賞受賞報告会 世界
に届け! 百合文書ーなんで資料館が「すごい」と言わ
れたの?ー(チラシ)、総合資料館だより No.181・182、
高瀬川開削400年記念 高瀬川と京都の水運(ポス
ター・チラシ)、特別陳列ユネスコ世界記憶遺産候補
東寺百合文書(チラシ)、百合通信 第1号、ユネスコ世
界記憶遺産候補国宝東寺百合文書(パンフレット)、ユネ

スコ世界記憶遺産候補東寺百合文書連続講座 世界
のなかの東寺百合文書(ポスター・チラシ)

宮内庁書陵部図書課宮内公文書館

宮内庁宮内公文書館・明治神宮共催展 宮中の和
歌ー明治天皇の時代ー(図録・ポスター・チラシ)

国立公文書館

「JFKーその生涯と遺産」展(ポスター・チラシ)、アーカ
イブズ 第54号、国立公文書館所蔵資料展 近代日本
と徳島のあゆみ(ポスター・チラシ)、国立公文書館報北
の丸 第47号、平成26年特別展 江戸時代の罪と罰
(ポスター・チラシ)

札幌市総務局行政部公文書館

札幌市公文書館年報 第1号 平成25年度

寒川文書館

寒川文書館だより Vol.16、寒川文書館年報 第7号
平成25年度

東京都公文書館

東京都公文書館だより 第25号

栃木県立文書館

文書館だより 第56号

長野県立歴史館

長野県立歴史館だより vol.80~82、長野県立歴史館
催しもの案内 2014年9月・2015年4月(リーフレット)、平
成26年度秋季企画展 信濃武士の決断ー信長・秀
吉・家康の時代ー(ポスター・チラシ・招待券)、平成26年
度冬季展 「縄文土器展」(ポスター・チラシ・招待券)、
山と海の廻廊をゆくー信濃と北陸をつなぐ道ー(ポス
ター・チラシ・招待券)

新潟市歴史文化課

平成27年度歴史文化課非常勤職員採用試験案内

福井県文書館

福井県文書館年報 第11号、文書館だより 第22号

福岡共同公文書館

福岡共同公文書館第5回企画展 福岡県の災害の記
録(ポスター・チラシ)、福岡共同公文書館だより vol.05

福島県文化振興財団

福島県史料情報 第40号

和歌山県立文書館

和歌山県立文書館だより 第41号

大阪大学広報・社会学連携オフィス

大阪大学×大阪ガス アカデミックッキング(チラシ)、大阪大学21世紀懐徳堂塾 OSAKANCAfé⑤ 近松つあんの大阪弁(チラシ)、外科学の新展開ー心筋再生治療ー講演1・日本中世は呪術からの解放の時代か?ー中世仏教の合理と非合理ー講演2(チラシ)、阪大NOW No.142・143、ハンダイ映像祭2014 3分で、変わる伝える力結集。(パンフレット)、人とはなにか。心とはなにか。〜芸術と技術、科学と哲学の交わる場所(チラシ)、ペーゼンドルファー1920演奏とお話vol.4 ピアノの奥から響くもの:クルターグ「遊び」をめぐって(リーフレット・チラシ)

大阪大学総務企画部

「適塾」から「世界適塾」へ〜学問による調和ある多様性の創造、2031年に世界トップ10の大学へ〜(チラシ)、2014 Osaka University Autumn Entrance Ceremony President's Address(パンフレット)、Strategy Book(リーフレット)、世界適塾 大阪大学から世界へ(パンフレット)

大阪大学情報推進部

大阪大学サイバーメディア・フォーラム No.15

大阪大学教育推進部

平成26年度 ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修報告書

大阪大学環境・エネルギー管理課

大阪大学「ワニ博士」節電シール

大阪大学免疫学フロンティア研究センター

Annual Report of IFRc 2013 FY、IFReC Japanese Class(チラシ)、IFReC 免疫学講座 Series1〜4(チラシ)、Practice Theory for Outreach in the University-know-how at IFRc(チラシ)、RDS Researcher and Staff Development FY2013 “Being a Scientist” RD/SD Seminar Series(チラシ)、The 3rd・4th Winter School on Advanced Immunology、WPI Osaka university IFRc(パンフレット)、いちよう祭2014 サイエンスカフェ 体の中の掃除屋さん マクロファージの多彩な機能(チラシ)、公開シンポジウム 免疫研究が拓く未来医療(チラシ)、サイエンスカフェ・オンザエッジ⑬〜先端の化学者が見ているコト・モノ〜 炎症体にとって敵か味方か(チラシ)

大阪大学教育学習支援センター

2014年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメントプログラムガイド 10月〜3月、大阪大学教育学習支援センター国際シンポジウム 大学カリキュラム改革の最前線ー新しい時代に求められる能力と教養教育ー(ポスター)

大阪大学21世紀懐徳堂

大阪・京都文化講座(後期) 京都・大阪街歩きー文学・芸術・映画の舞台を仮想探訪するー(チラシ)、大阪大学×大阪ガスアカデミックッキング(チラシ)、大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座 2014年度前期(チラシ)、大阪大学21世紀懐徳堂だより vol.18〜20、大阪大学シンポジウム2014 適塾 平成の改修〜未来へ守り伝えるために(チラシ)、第12回 植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて(チラシ)、第46回大阪大学公開講座(パンフレット)、第7回適塾講座 未知なる江戸の外交史ー適塾を育んだ世界との交流(チラシ)

大阪大学安全衛生管理部

職場のメンタルヘルスとストレスマネジメント(ポスター)

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室

二頁だけの読書会 vol.4(チラシ)

大阪大学附属図書館

ANNUAL REPORT OF OSAKA UNIVERSITY Academic Achievement 2007-2008 Vol.9、Bulletin No.55・57、Course Descriptions 授業案内 2002〜2008、Intensive Japanese Programs 履修案内 2002〜2008、Osaka University of Foreign Studies 1988・1990〜2000・2005〜2008、Osaka University of Foreign Studies THE ANNUAL FOR FRESHMEN 1990〜2000・2005〜2007、OSAKA UNIVERSITY PROSPECTUS 2008・2009、OSAKA UNIVERSITY School of Foreign Studies Open Campus Program 2009、OUPS No.5 大阪外国語大学広報誌、RAINBOW REVIEWー新入生に薦めるこの十冊ー 1991・1992、新しい外大のために 第1〜5・7〜12号、あたらしい外大のために特集シリーズ 第1〜5号、異文化を知る旅〜大阪外大生の地球の歩き方〜、大阪外国語大学大学改革討議資料集、大阪外国語学校一覧 昭和3〜4・6・8〜10・12〜13・15年、大阪外国語大学 1991〜1993・2004・2007、大阪外国語大学・東京外国語大学定期競技大会 第52〜56回、大阪外国語大学一覧 昭和27・28年度、大阪外国語大学改革構想について、大阪外国語大学外部評価報告書、大阪外国語大学学生生活支援室 学生相談室年報 第1・2・4号、大阪外国語大学授業概要 昼間主コース 1996年、

大阪外国語大学職員録(昭和59～62年、平成5～6年、平成11～13年)、大阪外国語大学新学舎建設の概要、大阪外国語大学人権委員会報告書、大阪外国語大学短期大学部教職員学生名簿、大阪外国語大学における国際化の現状と将来構想、大阪外国語大学入学試験室調査報告書 追跡調査報告2005、大阪外国語大学の改革構想、大阪外国語大学の現状と課題、大阪外国語大学便覧 昭和24～37年度、大阪外国語大学附属図書館 自己点検・評価報告書、大阪外大新聞 第4～11、13、15～17、19～22、24～25、27、30～31、33、38、61～62号、大阪外大学生ボランティア活動記録、大阪外大学生ボランティアグループ 新聞記事、大阪大学 大学案内 2008～2010、大阪大学 平成20年度学生募集要項、大阪大学キャンパスライフ 2009、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻 博士前期課程 博士後期課程 2008、大阪大学大学院言語文化研究科要覧 2012、大阪大学図書館報 48巻1号、大阪大学入学者選抜要項 平成22年度、外大の未来を拓く 創刊号～8号、課外活動紹介 2006、学生案内 1970～2007、学生生活実態調査報告書(第3回)、学生生活のしおり 1970～1974、1977～1980、学生便覧 大阪外国語大学 昭和38～40年度、42年度、学生便覧 大阪外国語大学第二部 昭和40～44年度、56～63年度、平成元年度、学生便覧 大阪外国語大学短期大学部 昭和36～41年度、学生便覧 平成20・22～23年度、学生部速報 No.1・3～4、学生部広報 第5～12・18～20・23・28～30・32～39・41～45・47～48号、季刊 扉 NO.5・6・9～11・13・20・28・33・35・36・41・46・48・61・63・64、キャンパスライフ 2008、教科に関する科目一覧表、炬火 第二十九号、言語を究めて世界へはばたく 2008・2010、交流 ネットワーク 第86～98号、これからの外大 第13～18号、朔風 No.2(同窓会名簿)、授業科目講義要旨(シラバス) 昼間主コース・夜間主コース・第二部 2001～2006、授業科目履修案内 昭和45～63年度、授業科目履修案内 1987～1996、授業科目履修案内(昼間主コース・第一部) 1998～2000、授業科目履修案内(昼間主コース) 2001～2007、授業科目履修案内(夜間主コース・第二部) 1995・1997～2001、授業科目履修案内(夜間主コース) 2002～2007、授業時間割 平成18・19年度春学期、授業時間割 外国語学科(豊中開講科目)平成23年度、授業科目履修案内 平成元年～2・5～6年度、世界のわかものよ《海外作品翻訳集》第22・23集、卒業者名簿 昭和38・42～48・51～63・平成元年～11年、卒業者名簿(大阪外国語大学第二部)1989・1990年、第1回学生生活実態調査報告書(昭和47年1月)、大学案内 大阪外国語大学 1994～1996、2001～2003、大学案内 大阪外国語大学第二部 1992、大学新聞が伝えた阪

神大震災【縮刷版】、知の世界へのいざないー君は外大をいかにいきるかー、追悼 相浦晃先生、日欧国際シンポジウム 欧州における日本語日本文化教育の展望ー欧州と日本との教育的連帯を目指してー、日本語講座年報 2003～2005、博士前期課程(修士課程)日本語・日本文化専修プログラム、ひろば(学生生活室広報) 第50～155号、藤村昌昭先生追悼文集、平成18年度大阪外国語大学FD研修報告書、平成20(2008)年度 特別選抜募集要項、平成20年度大阪大学大学院言語文化研究科 言語社会専攻(博士前・後期課程)学生募集要項、平成23年度 大阪大学大学院副専攻プログラム 大学院等高度副プログラム、履修案内 言語社会研究科 1998～2005、履修案内 大学院博士前期課程言語社会研究科 日本語・日本文化特別コース 2002・2004、履修要項(教職課程) 昼間主コース・夜間主コース、履修要覧 昭和52～55年度、留学生生活実態調査報告書(第1回)、留学生日本語教育センター棟図書室利用案内

大阪大学外国語学部

大阪大学外国語学部の歴史(1992年9月～2013年11月)『大阪外国語大学70年史』増補

大阪大学医学部附属病院

Handai Hospital 阪大病院ニュース 第56・57号、平成25年度 アニュアルレポート

大阪大学医学部附属動物実験施設

Osaka University Medical School IEXAS Annual Report 2014 施設便り 2014

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部

SCHOOL OF DENTISTRY OSAKA UNIVERSITY OUTLINE 2014

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校(パンフレット)、平成27年度 学生募集要項 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校

大阪大学大学院工学研究科・工学部

平成27(2015)年度 大阪大学大学院工学研究科 博士後期課程学生募集要項(平成27年度(2015)年10月入学)、大阪大学大学院工学研究科 平成28(2016)年4月入学 博士前期課程推薦入学特別選抜 学生募集要項、平成28年度(2016)年度 大阪大学大学院工学研究科 博士前期課程学生募集要項(平成28年(2016)年4月入学)、平成28(2016)年度 大阪大学大学

院工学研究科 博士後期課程 学生募集要項(平成28年(2016)4月入学)

大阪大学大学院基礎工学研究科・基礎工学部

“Engineering Science 21st Century” Special Program for April or October 2015! Master’s and Doctoral Courses in English(チラシ)、Special Program of “Engineering Science 21st Century” for Master’s and Doctoral Courses in English Graduate School of Engineering Science, OSAKA UNIVERSITY “Enrollment in April 2015” Application Guide for Foreign Students、Σ 留学生相談室だより No.15、大阪大学太陽エネルギー化学研究センター2012・2013年度年報、第12回 大阪大学太陽エネルギー化学研究センターシンポジウム講演予稿集 ナノ構造制御による機能性材料・触媒開発、第36回(平成26年度) 公開講座「未来を拓く先端科学技術」(テキスト・ポスター・パンフレット)、第11回 大阪大学太陽エネルギー化学研究センターシンポジウム講演予稿集(英語版) 11th Symposium of Research Center for Solar Energy Chemistry Prospects for Utilization of Solar Energy: Next-Generation Solar Cells and Photocatalysts

大阪大学大学院言語文化研究科

大阪大学大学院言語文化研究科要覧 2014、言語文化研究 40、言文だより 第31号—言語文化研究科2013—

大阪大学大学院国際公共政策研究科

国際公共政策研究 第19巻第1号(通巻第35号)

大阪大学大学院高等司法研究科

大阪大学大学院高等司法研究科ニューズレター No.14

大阪大学微生物病研究所

大阪大学微生物病研究所 学術講演会 生殖細胞における小分子RNAによるトランスポゾンの抑制機構(ポスター)

大阪大学蛋白質研究所

Prospectus Institute for Protein Research Osaka University 2014、大阪大学蛋白質研究所 要覧 2014

大阪大学社会経済研究所

シンポジウム 家計の金融活動と地域の中小企業金融のあり方(ポスター)

大阪大学接合科学研究所

TRANSACTIONS OF JWRI Vol.43No.1 2014、大阪大学接合科学研究所スマートプロセス研究センターニューズレター No.24、浪速博士の溶接がってん! R、阪大接合研ニューズレター No.35

大阪大学低温センター

平成25年度 共同利用研究成果報告書

大阪大学環境安全研究管理センター

環境安全ニュース No.52・53

大阪大学国際教育交流センター

CIEE Center for International Education and Exchange 大阪大学国際教育交流センター(パンフレット、3つ折)、OUSSEP CALENDAR: OSAKA UNIVERSITY SHORT-TEAM STUDENT EXCHANGE PROGRAM: Full-year OUSSEP, Half-year OUSSEP 2015-2016、大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会参加団体活動概要、国立大学法人留学生センター等における留学生交流指導体制をめぐる最近の状況 平成26年度、第41期日本語集中(研修)コース修了発表会報告書、平成26年度大阪府教育センター初任者研修における社会体験研修 吹田市初任2年目研修における社会体験研修 実施報告書

大阪大学総合学術博物館

大阪大学総合学術博物館 第18回企画展 魅惑の美 Crystal—最先端科学が拓く新しい結晶の魅力—(ポスター大・中、チラシ)、大阪大学総合学術博物館 年報2013、シンポジウム 大学ミュージアムを熱く語る! (チラシ)、マチカネワニ化石発見50周年記念事業 大阪大学シンポジウム マチカネワニ・サミット2014(ポスター大・チラシ)

大阪大学金融・保険教育研究センター

大阪大学金融・保険教育研究センター 2014(パンフレット)、大阪大学金融・保険教育研究センター 平成二十五年度活動報告書、平成27年度4月入学 大阪大学金融・保険教育研究センター科目等履修生高度プログラム「金融・保険」【募集要項】

大阪大学グローバルコラボレーションセンター

FIELDO ブラウンバッグランチ(BBL)セッション(チラシ)、GLOCOL海外インターンシップ助成を活用して カリフォルニア大学を訪問しませんか? (チラシ)、GLOCOLセミナー(117)/グローバルエキスパート連続講座(23) Joint Outreach Mission 国際機関合同アウトリーチ・

ミッション(チラシ)、アラン・マッキー判事の難民法講座(チラシ)、大阪大学グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL) 海外インターンシップ・プログラム助成説明会インターンシップ体験談報告会、第67回日米学生会議 説明会in大阪大学、東アジア“生命健康圏”構築に向けて 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議(チラシ)

大阪大学日本語日本文化教育センター
センター広報 第20号

懐徳堂記念会
平成27年度懐徳堂古典講座－基本コース－4月開講
受講生募集(チラシ)

咲耶会
(大阪外国語大学・大阪大学外国語学部同窓会)
会報「咲耶」No.25(2014)

川井美登子
Erinnerung an der Universität(T 2602 大阪帝國大學 工學部機械工學科)

山本弘子

大阪高等学校排球部手ぬぐい、大阪高等学校寮歌集ソノシート、大阪高等学校寮歌集第二集ソノシート、大高創立60周年記念オルゴール、人間・大高の森

菅真城(大阪大学)

大阪大学経済学 第64巻第2・3号、大阪大学経済学 第64巻第2号抜刷「畑田耕一名誉教授に聞く－大阪大学の思い出を中心に－(2)」、大阪大学経済学 第64巻第3号抜刷「新開陽一名誉教授に聞く－大阪大学の思い出－」、資料室ニュース vol.55、震災資料をつなぐ－収集・保存の軌跡－(チラシ)、生産と技術 Vol.67No.1、中京大学六十年のあゆみ、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター資料室Library&Archive(リーフレット)、関西大学大阪都市遺産研究センター研究叢書 別集4-4『住友文庫ドイツ医学学位論文目録』第四巻

学内刊行物の保存場所についての基本方針

大阪大学アーカイブズ准教授 菅 真城

大阪大学アーカイブズでは、前身の文書館設置準備室時代から学内刊行物の体系的な収集に努めてきました(菅真城「学内刊行物の資料価値－文書館設置のために－」『大阪大学文書館設置準備室だより』第10号、2012年)。しかしながら、学内刊行物を所蔵しているのはアーカイブズだけではありません。附属図書館で所蔵されているものもあります。アーカイブズと図書館の両方に所蔵されることは、それぞれの組織のミッションや利用者の利便性を考えると利点もありますが、所蔵が重複して非効率です。そこで、附属図書館からの提案で、以下のような基本方針を立てました。

研究紀要・論文集は附属図書館で、上記以外の学内刊行物はアーカイブズで收藏するというのが大原則です。研究紀要・論文集については、大学アーカイブズでもその理念に基づいて収集しても良いという研究(堀田慎一郎「大学アーカイブズと「大学資料」(刊行物資料)－名古屋大学における理論と実践－」『名古屋大学大学文書資料室紀要』第14号、2006年)がありますし、筆者も一研究者としてはそのように考えていますが、保存スペースの問題、そして附属図書館に体系的に收藏されているため、大阪大学アーカイブズでは収集対象と致しません。附属図書館では、研究紀要・論文集以外の学内刊行物については最新号を置き、利用に供したのち、以下の手順で所蔵場所を決めることになりました。

- 1) 附属図書館各館で、対象資料のタイトル・巻号を記したリストを作成し、アーカイブズに送付する。
- 2) アーカイブズで受入可否を判断し、結果を附属図書館に通知する。アーカイブズに同資料があるために受入しない場合はその旨付記する。
- 3) アーカイブズにおいて受入可資料は、附属図書館からアーカイブズに移す。
- 4) アーカイブズが受入を拒否した資料は、附属図書館で所蔵する。ただし、2)でアーカイブズに同資料があるために受入否となった資料については廃棄する。

業務日誌(抄) (2014年9月～2015年2月)

2014年

- ・9月4日 川井登美子氏から大阪帝国大学工学部アルバムを受贈。
- ・9月9日 国立公文書館から閲覧手続きについて照会。
- ・9月10日 外国学図書館と旧大阪外国語大学資料の取り扱いについて協議。
- ・9月19日 菅、東京出張。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会第278回定例研究会（東京大学）に出席。
- ・9月26日 外国学図書館から旧大阪外国語大学関係資料を受贈。
- ・10月8～10日 全国大学史資料協議会2014年度総会ならびに全国研究会を開催（桃山学院・大阪大学・適塾・杏雨書屋）。
- ・10月20日 附属図書館から所蔵資料について照会。
- ・10月21日 公益財団法人大阪癌研究会から資料受贈。
- ・11月6日 学内刊行物の移管について附属図書館から照会。
- ・11月10日 菅、全国大学史資料協議会西日本部会設立25周年記念誌座談会に出席。学内刊行物の移管について附属図書館に回答。
- ・11月12日 アーカイブズ運営委員会を開催。

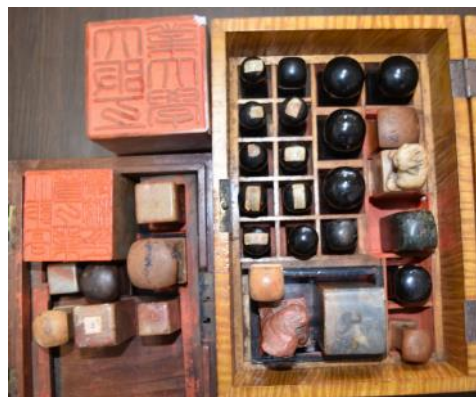
- ・11月17日 内閣府大臣官房公文書管理課による現地調査。
- ・11月18日 学外から原子核実験施設について照会。
- ・11月25日 学外から湯川秀樹博士の写真について照会。菅、アート・アーカイブズ概論で「日本のアーカイブズと大阪大学アーカイブズ」講義。
- ・11月26日 広報・社会学連携オフィスから大阪高等工業学校の写真について照会。
- ・12月16日 菅、京都出張。全国大学史資料協議会西日本部会2014年度第4回研究会（立命館大学）に出席。
- ・12月20日 菅、東京出張。公文書管理法5年見直しについての合同研究集会（学習院大学）に出席。

2015年

- ・1月7日 学内刊行物の移管について附属図書館から照会。
- ・1月15日 学内刊行物の移管について附属図書館に回答。
- ・1月24日 菅、名古屋出張。日本アーカイブズ学会2014年度第2回研究集会（中京大学）に出席。
- ・2月19日 工学研究科から大阪工業大学公印等印鑑32本を移管。

公印いろいろ

旧工学研究科資料室所蔵資料のうち文書・書籍等紙媒体のものは既にアーカイブズに移管され、一般の利用に供しています。このたび、工学研究科からモノ資料についても移管を希望するかどうかの照会があり、大阪高等工業学校、大阪工業大学の公印、計32本がアーカイブズに移管されました。なお、銘板については、総合学術博物館に移管されています。（菅 真城）



大阪大学アーカイブズ利用案内

・開室日

次に掲げる日を除く毎日

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 12月29日から翌年の1月3日までの日

・利用時間

午前9時30分～午後4時30分

・利用請求の受付

午前9時30分～正午、午後1時～午後4時

大阪大学アーカイブズ構成員名簿

室長 飯塚 一幸
(文学研究科教授)
准教授 菅 真城

〈事務担当〉

大阪大学総務企画部総務課文書管理室

室長 田中 良和
(総務企画部総務課長)
室長代行 美濃越 進
(嘱託職員)
室長補佐 平野 雅宏
事務補佐員 川口由美子
石崎 光穂



大阪大学アーカイブズニュースレター 第5号

発行日 2015年3月31日
編集発行 大阪大学アーカイブズ
〒562-8558

大阪府箕面市栗生間谷東8-1-1

Tel. (072) 730-5113

Fax. (072) 730-5114

E-mail office@archives.osaka-u.ac.jp

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/ed_support/archives_room